

# 惑星科学会運営支援の電子化へ向けて

## —会員の皆様への会員個人情報入力実験への協力お願い—

林祥介<sup>1</sup>

本年6月の惑星科学会総会、および、ニュースレター(後に再掲)にてお知らせ致しましたとおり、惑星科学会運営支援の電子化へ向けての努力を続けています。本原稿執筆時点(8月初旬)においては

日本惑星科学会ドメイン [wakusei.jp](http://www.wakusei.jp)  
日本惑星科学会ホームページ <http://www.wakusei.jp/>

等の立ち上げを完了し、いよいよ佳境であるところの、会員データベースの実装、WEBとの結合と、その運用実験に着手する手はずとなりました。

会員データベース運用実験においては、会員個人情報データの入力を会員において実際に行っていたり、諸々の不具合のチェックとバグ出しを進めるとともに、データベースとWEBを利用した学会運営事務処理の設計をおこなっていきます。詳細は

<http://www.wakusei.jp/>

に順次揭示致しますので、できるだけ多くの会員に御協力頂けますようお願い致します。なお、問題点等の連絡先は

[oml@wakusei.jp](mailto:oml@wakusei.jp) オープンメールリスト  
[steering@wakusei.jp](mailto:steering@wakusei.jp) 運営委員会メールリスト

ですので、必要に応じて適宜使い分けてご連絡ください。

なお、運用実験で入力していただく会員個人情報は、そのまま本運用で学会運営のために利用させていただきますことになるものですので、その旨御了解御了

<sup>1</sup> (北大・理・地球惑星)副会長/将来計画委員長

承の上、実験に参加していただければ幸いです。できるだけたくさんの方々に(できれば全会員)に個人情報入力を行っていただければ、10月の秋季講演会時の総会後に予定している本運用開始時に、運営委員会ボランティアによる会員データ入力の手間が減りますので非常に助かります。

今後、会員個人情報データベースを学会WEBサーバに結合することにより

- ・会員個人情報の変更等は会員個々人においてネットワーク経由で行っていただくことにより、総務担当会員の負担を大幅に軽減する。
- ・個人情報データベースから [nesletter@wakusei.jp](mailto:nesletter@wakusei.jp) 惑星科学会ニュースレター [oml@wakusei.jp](mailto:oml@wakusei.jp)

オープンメンバーリストのメールアドレスリストを自動生成することにより、情報担当者の負担を軽減し、かつ、ニュースレターのペーパーレス化を完成する。

- ・順次ユーティリティを整備し、会長をはじめとする運営委員選挙をオンラインで行うようにし、同時に紙の名簿を廃止、ペーパーレス化を完成する。これにより、総務担当会員の選挙関連の手間を排し、印刷費用、郵送費用を節約、電子化費用に転用する。

を行っていく予定です。

# 付：惑星科学会運営支援の電子化へむけて

(ニュースレター掲載記事の再掲)

林祥介<sup>1</sup>

惑星科学会は学会の事務局スタッフという「ハードウェア」を持っていません。会費の管理、名簿の管理からはじまって、メールリストの運営やサーバ管理まで学会の運営は運営委員会とその協力者という研究者ボランティアの集まりによってなされています。ネットワークサーバについても、会員の所属する教育研究機関のご厚意によって同様な運営形態をとって来ました。その管理に関しては昨今のネットワークセキュリティ問題への対応要請等もあり、ボランティアへの負担は年々増しつつあります。WEBやメーリングリスト、運営書類等の継承管理を今後どのように行っていくか、という問題を真剣に検討すべき段階になっています。一方、社会におけるインターネットとネットワークサービスの進展により、これまでは独立事務局を持つような大きな団体でしか考えられなかったような諸々の情報サービスを、小さな団体でも享受できる社会環境ができています。複数の団体に対する同様の支援をネットワーク上に展開する企業を立ち上げることにより、一団体あたりのコストを低く押えるサービス提供が可能になると考えられるようになってきたからです。

以上の状況を鑑みて、この種の企業にデータサーバの提供・管理を依頼し、これをもとに、全国に分散して存在する運営ボランティアをネットワーク上に統合し仮想事務局としてサーバ上に組織することにより、学会運営と学会運営情報の伝承とを容易にする案を2000年秋季講演会時の総会にてお諮りしました。総会にて幸い会員の皆様のご理解と同意が得られましたので、その後、運営委員会では具体的な検討を進めて参りました。本学会の予算規模と必要なサービスを検討したところ、当初は上記のシステムを構築することは困難な状況でした。しかし幸い上記の趣旨を理

解し実験プロジェクトとして格別の条件で協力をいただける企業を見いだすことができ、現在、共同開発という形で上記の実現に向かうべく準備を進めつつあります。今後、具体的には以下の条件のもとで、共同実験プロジェクトとして進めて行く予定です。

- ・システム構築に際し必要となる諸問題に対し、本学会がマンパワー的に貢献する。
- ・開発実コストは当該企業が長期的に回収する。運用費用は、遊星人の発送コストを含め、現在の発注先である学会事務センターに依頼している程度(+ $\alpha$ )である。
- ・2002年1月から会員向けの運用を開始する。最大2年程度の実験を行なう。

その後レビューを行ない、費用効果が期待できない場合は閉鎖する。実装実験2年、今年度の準備期間をいれて足掛け3年の実験です。

現時点で既に製作段階にあるか、または、実装射程にあがっている支援機能は

- ・惑星科学会会員名簿のWEBベースでの管理：会員自らによるデータの更新・管理
- ・会費納入状況の管理
- ・運営資料のWEB上へのアーカイブ
- ・メーリングリストの管理とアーカイブ
- ・これらを学会ホームページとして有機的に結合すること

です。軌道にのればさらに、秋の講演会の掲示WEBサーバ、夏の学校などのサーバサービスを統合してプラットフォームを提供していくことが可能となるでしょう。

1 (北大・理・地球惑星)副会長/将来計画委員長

## 惑星科学会運営支援の電子化へ向けて

113

少なくとも最低限2年程度は、WEB・MailList運用サーバの維持管理問題から開放され、本学会のボランティアはコンテンツ作成にのみに集中できるようになる予定です。

今後のスケジュールとして現時点では次のような手順を考えています。

- ・合同大会時、春の総会にて詳細の説明
- ・順次、開発段階に応じて、できるだけ多くの会員の方々による入力実証実験
- ・秋の総会で、その時点での現状報告。方針の正式承認入力実証実験継続
- ・移行準備開始
- ・2002年1月からの正式運用

以上、会員各位のご協力をよろしくお願い致します。